

## 620) 森田さんの天気予報とバッチャんの天気予報

森田さんが予報官としてデビューした頃、彼のデータ収集力から類推する天気予報を見るのは楽しかった。正直、天気予報を楽しい番組とした先駆者は森田さんだろう。だが最近では誰も彼もコンピュータデータを持ち出して「去年の入梅は昨日だった。今年も明日も雨になれば、入梅が宣言されるだろう。」などと馬鹿げたことを言う。これじゃ全く裁判所の判例主義と一緒にじゃないか。役人て言うものはこんな程度でオマンマが食えるんだからチョロイもんだね。2017年の梅雨も同様。だが翌日は確かに雨になりツユイリとなったが、その後は殆ど毎日晴天になった。しかも梅雨の条件であるオホーツク海高気圧などどこにも見当たらない。だから北海道では毎日雨になることもあった。この件で気象庁に電話して文句を言ったら、「どうせ9月初旬に訂正するからいいんです。」という。小生に言わせればこんな職員は税金の無駄遣いだ。さっさと辞めさせちまえ!きつと出勤して一日中スポーツ紙を読んで、5時になるとさっさと帰ってしまうのだろう。

バッチャんは高崎の郊外で美味しいトマトを栽培している。ちょうどツユイリの発表があった数日後の晴天の日、バッチャんとカボチャの苗を植えに畑に行くと、バッチャんは「今年の梅雨は空梅雨だね!」といった。「どうして?」と尋ねると、「こんな所にハチが巣を作っているからね。」と答えた。確かに地上20cmにもならない地面に近い所にアシナガバチがせっせと巣を作っていた。それからかれこれ40日、晴天と降雨は交互にやってきて梅雨とは思えなかった。そして暑い日が2~3日続くと気象庁は梅雨明けを宣言した。バッチャんの言うとおりの関東では空梅雨だった。でもそれからむしろ雨が続いた。そしてバッチャんは言った。「この夏は長雨が続くね。」「どうして?」と聞くとバッチャんは、「またハチがこんな木陰の雨のかからない所に巣を作っているからだよ。」と答えた。そして天気予報マークは毎日曇天マークになっていた。ハチが巣を作るときは命がかかっている。だから的確に自然界の空気を読み取って、最も安全な場所に巣を作る。農業者も同様である。天候次第で収入はゼロになりかねない。だから1,000年も昔から自然の様々な現象に敏感になりながら農業を続けてきた。いい加減な天気予報を出して定年になれば退職金まで貰って、どこかへ天下って年金を貰って。これが公務員のオキマリのコースである。ジッチャんは思った。今年のツユイリは7月下旬になったのだろう。この8月の雨が梅雨のように続くと思う。そんな超異常気象も視野に入れずに、大自然を相手にする天気予報なんてできるはずがない。そこでジッチャんからの提案である。予報官は毎日百姓をしながらハチの研究をして予報が外れたら早くクビにするか、いっそう全員クビにして昆虫生態研究会を別会社として立ち上げるべきではないかと。きつと中長期予報はもっと当るようになると思うよ。ついでに地震の研究もナマズの研究に替えるべし!!。ナマズはきつとあのヒゲで地球の磁気や様々な地震発生時の変化を敏感に感じ取って地震を予知して暴れるんだと思う。ボンクラ頭で地震予知だなんて無理だね。自分の命もかかってないしね。現在の地震予知だって当たったことないもんね。これはジッチャんの意見どころか信念である。  
**バッチャん予報官バンザーイ!!**

